

# キリスト教保育

年主題

ともにつむぎだす

〜希望の中で〜

論説

子どもとの暮らしの中で  
―何を大切にすべきなのかを考える― (1)

本江理子

小論

こどもの平和

公文和子

礼拝のお話  
クリスマス―よろこびのおとずれ―  
大漉知子



12  
2023 DEC.

イエス・キリストによって与えられる義の実をあふれるほどに受けて

新共同訳聖書・フィリピの信徒への手紙1:11

今月の聖書の言葉は、口語訳聖書は「義の実に満たされて」とあります。「満ち足りる」という言葉は、聖書では人や物がいっぱいになることから、感情や生气、雰囲気などがゆきわたる、あふれそうになるということまで、広義に使われています。そして「喜び」「苦しみ」「正義」「憐み」「知恵」という語を伴っています。

次に注目したいのは「キリストによって」満たされるということです。「キリスト共に」にではないのです。何故かといえば、「キリストのうちには、満ちあふれる神性」があるからです。キリストが神のあらゆるはたらきに「満ちあふれて」おられるとすれば、わたしたちもまた神の豊かな恵みに満たされていることになります。

そして「義の実」の「実」の源は「霊」（ガラテヤの信徒への手紙5:22）です。「霊」とは、神が私たちと結ばれた関係を不朽なものにするための神の内に宿っている力とでも言っておきましょう。ここでの関係が「義」という言葉で表現されているわけです。従って「義の実」は、私たち自身の努力によって、この実を結ばせることはできないのです。私たちを新しい人に造り変えることのおおきくなるキリストを、信じる信仰によってできることなのです。私たちの生活は、キリスト・イエスだけが産み出すことのできる本当に素晴らしい快適さで満ち足りる（飽き足りる）のです。このように、キリストは、私たちに必要なものをすべて満たして下さいます。

私たち保育者が、キリストの満ちあふれる豊かさの中に生きてこそ、幼子も「満ち足りる」ことができるというものです。今こそこの方を、まことをつくして賛美するときであります。

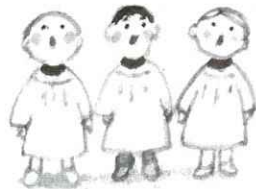
わたしたちはクリスマスの出来事を通して、キリストの満ちあふれる豊かさを受けているのですから、それを幼子と分かち合うことはできるはずです。

（宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長）  
1989年『キリスト教保育』誌12月号より



# キリスト教保育

第657号12月号



年主題

## ともにつむぎだす

～希望の中で～



幼子とともにキリストへ

目次

〈巻頭言〉一人ひとりの名を呼んで

水沼昭子

3

〈論説〉

子どもとの暮らしの中で

―何を大切にすべきなのかを考える―(1)

本江理子

6

〈小論〉こどもの平和

公文和子

14

聖書に聞く・お話

山本香織

18

【カリキュラム】

12月 月のねがい表

心にとめて 井奥千恵

実践報告 認めぐみこども園

実践からの学び 矢野キエ

心にとめて 小出肇

実践報告 東洋英和女学院幼稚園

実践からの学び 木村創

絵本のとびら 門前まり子

私たちの園では 相馬千里

〈連載〉子どもの健康 黒田恵美子

図書紹介 本田聡子 深山千夏子

〈連載〉キリスト教の行事 双葉幼稚園

目福口福耳福 緒方晴樹

礼拝のお話 大瀬知子

子どもと賛美するために

夏期講習会報告

風 菘田とみ子 編集子 西嶋佳弘

連盟だより

表紙絵  
カット

田中横子

中畝治子 こだいみのり

松成真理子 金井ユリ



39 38 37 32 30 29 24 22 21

66 65 60 59 48 47 44 43 40